

平成30年度 第1回窪田空穂記念館運営委員会 会議概要

- 1 日時 平成30年5月17日(木) 午後1時30分～3時
- 2 会場 窪田空穂記念館会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員側
飯沼秀文委員、上條宏之委員、来嶋靖生委員、窪田武夫委員、坂口登美子委員、
矢島勤氏(塚田道彦委員代理)、渡邊正明委員 7人
※欠席：折井理智子委員、篠弘委員 2人
 - (2) 市側
山村事業担当係長、土屋庶務係長、勝野分館長、小暮主事(学芸員)
- 4 平成29年度事業報告
 - (1) 短歌講座について
ア いわば頭打ちの状態。これから人を増やすことは難しいかもしれない。だからと言
って止めてしまうことは大変まずいことなので、講座は続けてもらいたい。この講座
は記念館の看板企画としてあてにしている人もいる。地方の人で行ってみたいとい
う人もたまに出てくる。人が増えるような良い案が出せれば良い。(委員)
 - (2) 子ども教室について
ア 将棋教室は藤井聡太六段の影響で増えて来ているのか。(上委員長)
→増えて来ている。それから、将棋連盟塩尻支部の方たちが大変熱心に活動してくれ
ている。プロ棋士の招へいも直接やっていただいている。(分館長)
イ 百人一首はどのような様子か
→参加者は小中学生がほとんど。初心者はほとんどいない。学校でやっていたり習っ
ていたり、興味を持って活動している人が多く参加してくれた。(学芸員)
ウ 芝沢小や高綱中に百人一首のクラブはあるか。(委員長)
→クラブはない。クラスによってはやるところもある。(委員)
 - (3) バス見学会について
ア 参加者は地域の人が多いか。(委員長)
→周知方法は広報まつもとだけなので、基本的には市内の方。平日参加が可能なお高
齢の方が多い。(分館長)
 - (4) 企画展について
ア 統合されてなくなった学校もいくつかあると聞いた。(委員長)
→16校中5校が統廃合されてしまっている。これからこういったことは増えてい

くことなので、この時期に記録として残しておくことができたのは良かったと思う。(分館長)

イ 高校生の総合文化祭が盛んになったが、講演会のテーマにもなったような短歌や詩をやるサークルはあるか。(委員長)

→文芸班が長野高校にある。しかし歌が口語体であるため、空穂とのつながりが難しい。(分館長)

ウ 早稲田の短歌会は盛ん。他所の大学と対抗したり、テレビで取り上げられていたり、学生の間では人気がある。文語で歌をつくることはないが、中には文語をうまく取り入れた折衷案のようなものもある。その風潮は悪いことではない。口語で歌をどンドン作ってもらって、その上で空穂の歌を読んでもらいたい。そこをどうつなげるかが課題。記念館の短歌の行事と大学を結び付けたい。(委員)

(5) 学校との連携について

ア 松本大学や小中学校との交流が盛んになってきているように見える。(委員長)

→松本大学に教育学部ができたことにより、国語を目指す学生や国語の先生が入ったため、積極的に活用してもらっている。空穂の歌に触れ、興味をもってもらえるように心がけている。子どもたちが身近に感じることができる歌も多い。(分館長)

イ 分かりやすい歌を広げていくことが大事。(委員)

ウ 子どもの短歌の指導はどのようにやっているのか。(委員長)

→中学校では国語の授業としてやる。百人一首は冬休みの課題にもなる。学年によっては冬休み明けにカルタ取りをやるところもある。(委員)

(6) その他

ア 記念館だよりはどの範囲で配布しているのか。

→市内の小中学校、関係各位、行事参加者、相互にやりとりしている文化施設等、国立国会図書館。(分館長)

→和田の地域の人たちに配布して中身を知ってもらえれば良い。(委員長)

イ 文京ふるさと歴史館の展示は、大変反響があった。松本まではとても行けないので、ここで見ることでよかったという声が多かった。(委員)

(7) 施設管理について

ア 施設管理の予算は大丈夫か。(委員長)

→博物館を通して市から出している。開館から25年経つので、直さなければならぬ箇所はたくさん出てきている。(分館長)

イ 収納スペースが欲しいと聞いたが。(委員長)

→収蔵庫はあるが物置がない。展示ケース等を入れる場所がほしい。(分館長)

5 平成30年度事業計画

(1) 企画展について

- ア 島秋人は何回かやっているが新しいことはできそうか。(委員長)
→新しく寄贈された手紙等から新しい切り口を見つけたい。(学芸員)
- イ 信毎の記者が島秋人に関心を持っている。事前に宣伝しておくとうい。(委員)
- ウ 講演会をどうするか。空穂に関係のないテーマでもよいと思う。(委員)

(2) 子どもの短歌について

- ア 少しずつでも投稿を増やしていければ良い。(委員)
- イ 数はこれくらいで良いと思う。数よりも違う手がかりを見つけたり、子どもたちのカラーがつけられれば良いと思う。(委員)
- ウ 篠先生や来嶋先生の短歌の会から子どもたちへ短歌の話をする機会があればと思う。(委員長)
- エ 俳句はねらい目だと思う。(委員)
- オ 俳句については、発表会や展示会で使ってくれても良いのではないか。短歌でなくても、短詩系に活用してもらえれば良いと思う。(委員)
- カ 深志の教員をやっている時に、教え子で俳句・短歌・川柳を全部つくる人がいた。短詩系は、人によってはあまり区別しない。(委員長)
- キ 俳句に投稿して、同じ題材で短歌に投稿するという人は何人もいる。広げる気になれば広げることはできる。(委員)

6 その他

(1) 事故報告について

- ア 窪田空穂生家の南側住宅敷地内に落下した樹木枝による物損事故についての報告。事故への対応については、相手方に対して謝罪をするとともに、誠意をもって損害への補償を行う。また、今後庭園管理業者と調整をはかりながら、高さ調節を含めた安全管理に努める。なお、この案件は松本市議会教育民生委員協議会にて報告したものとほぼ同様のものである。(係長)
- イ あまり詰め過ぎると木が枯れてしまう。枯れることがない範囲でやってもらいたい。(委員)
→風が強い地域でもあるため、安全と木の生育状況を業者と調整しながら進めていきたい。予算化してから行なうため、今すぐということではない。(係長)